

腹腔鏡下大腸切除術を受けられる患者様へ

入院診療計画書（患者用パス）

疾患名

病棟（病室）

（号室）

患者氏名

様

主治医

主治医以外の担当者

特別な栄養管理の必要性有・無サイン

月日	/	/	/	/	/	/	/	/	~	/
経過	入院	手術前日	手術当日（術前）	手術当日（術中）	手術当日（術後）	術後1日目	術後2日目	術後3日目	術後4～11日目	術後12日目
症状										
達成目標	手術について理解し同意がある		手術・麻酔に対して不安が軽減できる		麻酔から覚醒し痛みのコントロールができる	痛みのコントロールができる 腸の動きが促される 嘔気嘔吐がなく食事が摂取できる			創部に問題がない	食事が5割以上摂取できる 腸の動きが良好 創部に問題がない
活動・安静度	制限はありません		歩いて手術室に入室します		ベッド上安静にしてください	歩行の許可が出ます				
食事	腸内に便を残さないための食事です（病院から出る食事以外は避けてください）	昼食以降水分のみになります（水・お茶のみにしてください）				絶飲食です 医師の許可が出れば水・お茶を飲めます	状態をみながら水・お茶を飲めます 医師の許可が出れば昼から食事が始まります			
内服・点滴	現在内服中の薬を確認します 寝る前下剤を飲みます	昼から下剤を飲みます 朝より点滴をします	朝より点滴をします 朝必要な薬があれば飲んでいただきます		痛みがあるときは痛み止めを使います 点滴を持続的に行います				点滴を終了します	退院日に預かっていたお薬と手帳をお返しします
清潔・排泄		おへその掃除 シャワー浴をします 眠れない時は看護師にお声がけ下さい	朝はいつものように洗面して下さい		入浴はできません	体を拭きパジャマに着替えます	シャワー浴ができます			
検査						血液検査をします X線検査をします				
処置			手術前に手術着に着替えて 弾性ストッキングを履きます	尿道にカテーテルを留置します フットポンプを使用します	尿の管が入っています 酸素、心電図モニターがついています 下肢の血流を促す装置がつきます	酸素マスク・モニターを外します 尿の管が抜けます フットポンプを外します	歩行可能になれば弾性ストッキングを脱ぎます			
観察	検温をします	検温をします			術後安静を守り頻繁に観察します 術後～24時間は2Fで過ごします	体温・脈拍・血圧測定します 創の状態を観察します				
リハビリ						ベッド周辺動作から少しずつ進め、 状態が落ち着くまで看護師が付き添います				
教育・説明・指導	看護師より入院生活について説明します 医師より手術の説明があります 手術室看護師の訪問があります	術後物品の確認をします		手術後主治医よりご家族の方に手術の経過について説明します		大切な管がたくさん入っていますので 抜けないように気をつけましょう 痰は飲み込まずに出して下さい			栄養士による栄養指導があります	退院時主治医よりお話があります
退院後の治療上の注意点	～退院後の生活について～ 少しずつ手術前の生活に戻して下さい。創が腫れたり発赤が増強するとき（+38℃以上の発熱時）は外来を受診して下さい。									
その他療養計画	☒ 安全を確保するため、やむを得ない場合に身体的拘束を行います ＜看護＞									

・診療内容等は現時点で考えられるもので、今後の検査等を進めていくにしたがって変化する場合もあります。その場合は再度説明いたします。

・入院期間については、現時点で予想されるものです。

説明日

説明者